



農作業メモ

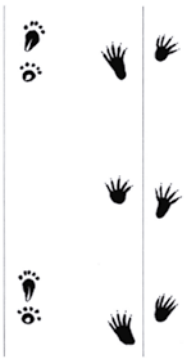
鳥獣害被害の現状と対策

熊谷市内では平成22年度からアライグマ捕獲数が急増しています。昨年は、特に被害が多く、6月中旬頃から農作物への被害が確認されました。トウモロコシやスイカ、ブドウ等で被害が多い状況です。

アライグマは、天敵がいないことと雑食性であることから強い繁殖力を持っています。次のことを参考に皆さんで被害防止対策に取組みましょう。

1 加害動物の特定

害獣の足跡、歩き方から加害動物が何であるかをまず特定し、侵入防止対策を講じます。



ハクビシン アライグマ

木に登るアライグマ、ハクビシン

は、上からの

侵入を防ぎ、

穴を掘るタヌ

キ、アナグマ

等は下からの

侵入を防ぎま

す。

2 アライグマの特徴

(1) 形態

明るい灰白色の体毛を持ち、目の周りには黒いマスク模様、尾には縞模様があります。四肢ともに長い5本の指があり、後足だけで体を支え立ち上がることができます。

(2) 繁殖

雄・雌ともに単独で生活し、発情期のみペアが形成されます。繁殖は、年1回で4月～6月に3～6頭の仔を産みます。



ハクビシン



アライグマ



アナグマ



タヌキ

(3) 食性

農作物ではトウモロコシ、メロン、スイカ、イチゴ等を食べるほか、家畜用の飼料や養殖魚の被害も報告されています。

(4) 生活

夜行性で昼間は、家屋の屋根裏や作業小屋、廃屋などの中で休息しています。木のほりや泳ぎが得意で水辺を好み、農業地域のほか市街地でも生息が確認されています。



写真

特徴



アライグマの特徴

アライグマの総合的な対策

(1) 電気柵による被害対策

トウモロコシやスイカ、ブドウ等では、電気柵の設置が最も有効です。特に、昨年被害を受けたほ場では、収穫期前までに電気柵を設置しましょう。

電気柵の効果的な設置方法については大里農林振興センターに問い合わせ下さい。

(2) 箱わなによる捕獲

アライグマは「特定外来生物(注)」に指定されており、狩猟免許を取得しなくても「アライグマ捕獲従事者養成研修」を受講すれば、箱わなで、アライグマを捕獲できます。

前記の研修、箱わなを検討の方は、熊谷市農業振興課にご相談ください。



アライグマの箱わな

2月から4月頃までは、比較的周辺に餌となる食べ物が少ないため捕獲しやすい時期です。

(3) 集落環境の浄化

放任果樹や収穫残さ等、自由に食べられる物を放置していることは、アライグマやハクビシンに「餌」を与えていることと同じです。そのため、餌となるものを減らすなど、アライグマ等を寄せ付けない対策について集落全体で考え、行動することが重要です。

(注)もとも日本にいなかった外来生物のうち、生態系などに被害を及ぼすもの。
(大里農林振興センター農業支援部)